

委員会名	温泉地学研究所外部評価委員会（課題評価）
日時	平成19年2月23日（金）13時30分～16時30分
場所	温泉地学研究所会議室(2F)
委員	委員名および所属(五十音順) 江藤哲人 横浜国立大学教育人間科学部 教授 加藤照之 東京大学地震研究所地震予知研究推進センター 教授 田瀬則雄 筑波大学生命環境科学研究科 教授（委員長） 永井尚生 日本大学文理学部 教授
内容	<p>平成19年度経常研究のうち5課題について外部評価を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. S波スプリッティングの解析による神奈川県西部地域の構造境界の解明（H18～19） 2. 箱根地域の基盤構造及び火山噴出物の研究（H18～H19） 3. 地球化学的手法による箱根火山活動の活発化指標に関する研究（H18～H22） 4. 大深度温泉の経年変化等の検討による成因の研究（H18～H21） 5. 足柄平野における自噴地下水域減少機構の解明（H19～H20） <p>外部評価委員会における評価の要点（研究目標、目的についての評価。課題番号順。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大変面白く有益な研究。但し、この手法は時間・空間分解能が優れているとは言えないので、他のデータ(例えば地質データ、地震波構造探査など)を取り込んでいく必要があると思われる。 2. 火山における基盤構造は複雑と思われるが、これを地道に明らかにしていくことは重要である。また、特に温泉湧出との関連を入れることは興味深い。今後は、明らかになりつつある構造と火山活動や温泉湧出との関係について検討を進めるとよいと思う。Kuno(1970)の改訂を目指しているのは適切な目標といえる。 3. 新たに挑戦する火山ガス成分の採取、分析のルーチン化は、火山災害や温泉の保全や管理にも密接に関連しているので、研究の意義、目的はよいと考えられる。 4. 大深度温泉開発は全国的な問題であり、環境省も取り組んでいるが、地方自治体として実際に取り組んでいる機関がほとんどないので、基礎データの収集、整理（DB化）、さらに形成メカニズムの解明、湯量の評価（法）などは緊急の課題であり、神奈川県温泉地学研究所が取り組む研究の意義は大きい。 5. 3次元で実態を把握することは、地下水資源管理、水質形成、汚染問題など、すべてで重要になるので、期待したい。モニタリングなどの保全や対策などにも重要な示唆を与えられると思われる。実測により自噴帯での水理ポテンシャルを3次元で示した研究はないので、貴重な研究事例となるであろう。